

最近の管内経済概況

(2021年1月の経済指標を中心として)

～ **新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、
持ち直しの動きに弱さがみられる** ～

最近の動きをみると、

- 生産活動は、持ち直しの動きがみられる。
- 個人消費は、持ち直しの動きに弱さがみられる。
- 観光は、悪化している。
- 公共工事は、減少している。
- 住宅建設は、持ち直しの兆しがみられる。
- 民間設備投資は、減少している。
- 雇用動向は、弱い動きがみられる。
- 企業倒産は、件数、負債総額とも減少している。

全体として、管内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、持ち直しの動きに弱さがみられる。

なお、先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響、国際経済の動向等を十分注視する必要がある。

※ 下線部は、前月から判断を変更した部分。

2021年3月15日

照会先 : 経済産業省 北海道経済産業局
総務企画部 企画調査課

T E L : 011-709-2311 内線 2525

E-mail : hokkaido-kikakuchosa@meti.go.jp

U R L : <https://www.hkd.meti.go.jp>

管内経済概況判断の推移

(2021年3月現在)

発表月	2020年10月	11月	12月	2021年1月	2月	3月	前月との判断比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるが、一部に下げ止まりの動きがみられる	<u>新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるが、一部に持ち直しの兆しがみられる</u>	<u>新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるが、一部に持ち直しの動きがみられる</u>	<u>新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるが、一部に持ち直しの動きがみられる</u>	<u>新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるが、一部に持ち直しの動きがみられる</u>	<u>新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるが、一部に持ち直しの動きがみられる</u>	
生産活動	下げ止まりの動きがみられる	持ち直しの兆しがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	
個人消費	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	<u>持ち直しの動きに弱さがみられる</u>	
観光	<u>一部に持ち直しの兆しがみられる</u>	一部に持ち直しの兆しがみられる	一部に持ち直しの兆しがみられる	<u>弱い動きがみられる</u>	<u>悪化しつつある</u>	<u>悪化している</u>	
公共工事	減少している	増加している	減少している	減少している	増加している	減少している	
住宅建設	低下している	<u>下げ止まりの動きがみられる</u>	下げ止まりの動きがみられる	下げ止まりの動きがみられる	下げ止まりの動きがみられる	持ち直しの兆しがみられる	
民間設備投資	減少している	減少している	減少している	減少している	減少している	減少している	
雇用動向	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	
企業倒産	件数、負債総額とも減少している	件数は同数、負債総額は減少している	件数、負債総額とも増加している	件数、負債総額とも減少している	件数、負債総額とも減少している	件数、負債総額とも減少している	

※下線部は、前月から判断を変更した部分。

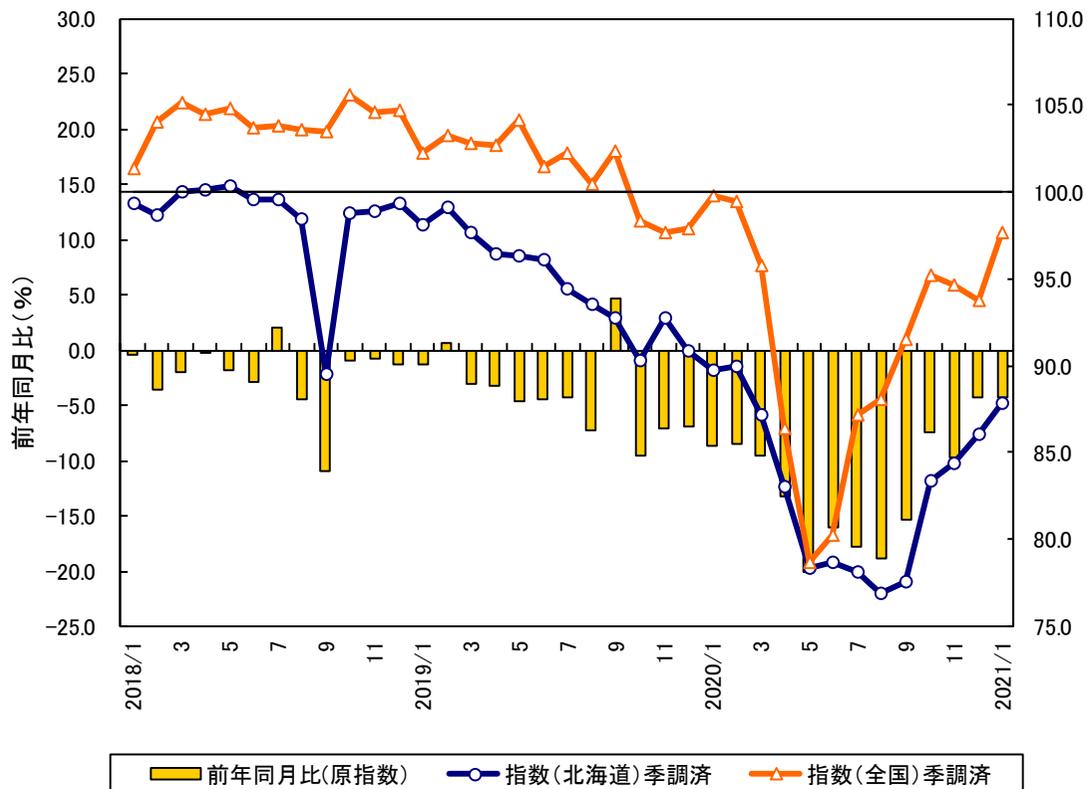
 上方修正  据え置き  下方修正

生産活動 ～ 持ち直しの動きがみられる ～

1月の鉱工業生産は、前月比+2.1%と5か月連続で上昇した。
 上昇業種は、輸送機械工業など9業種となった。低下業種は、パルプ・紙・紙加工品工業など6業種となった。

<1月>		
季節調整済指数		
北海道(速報)	87.9	(前月比+ 2.1%)
全国(速報)	97.7	(前月比+ 4.2%)

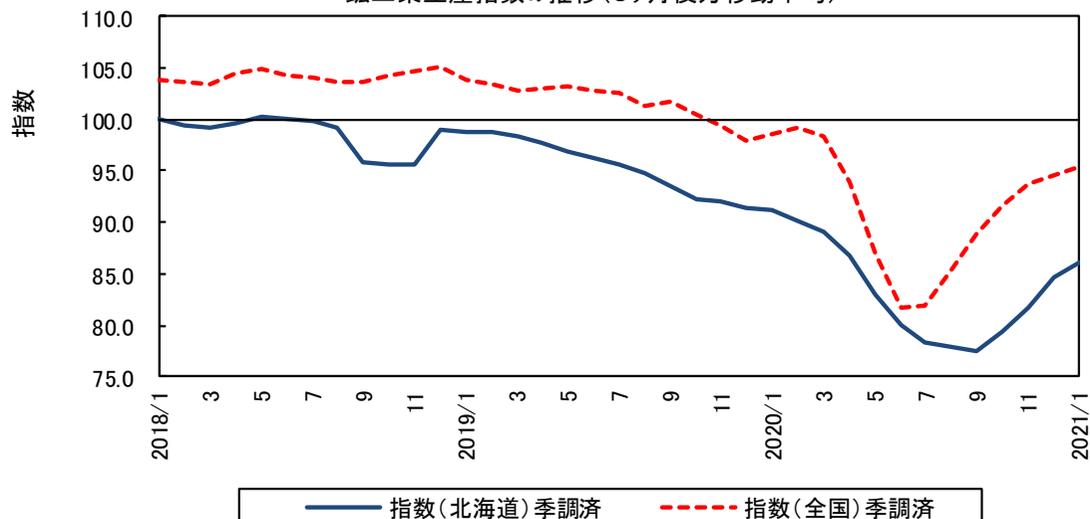
鉱工業生産指数(2015年=100.0)



【ヒアリング内容】

- 自動車産業が好調なことにより、自動車部品の生産が増加した。(輸送機械工業)
- 自動車関連の需要が増えたことにより、鋼半製品の生産が増加した。(鉄鋼業)
- スーパーなど量販店からの需要が好調なため、冷凍食品の生産が増加した。(食料品工業)
- 1月は元旦号のページ数が多い一方、その後は休刊も続くので、新聞巻取紙の生産量は伸びない。今後は、福島県沖地震で止まった工場の応援生産を行う可能性がある。(パルプ・紙・紙加工品工業)

鉱工業生産指数の推移(3ヶ月後方移動平均)

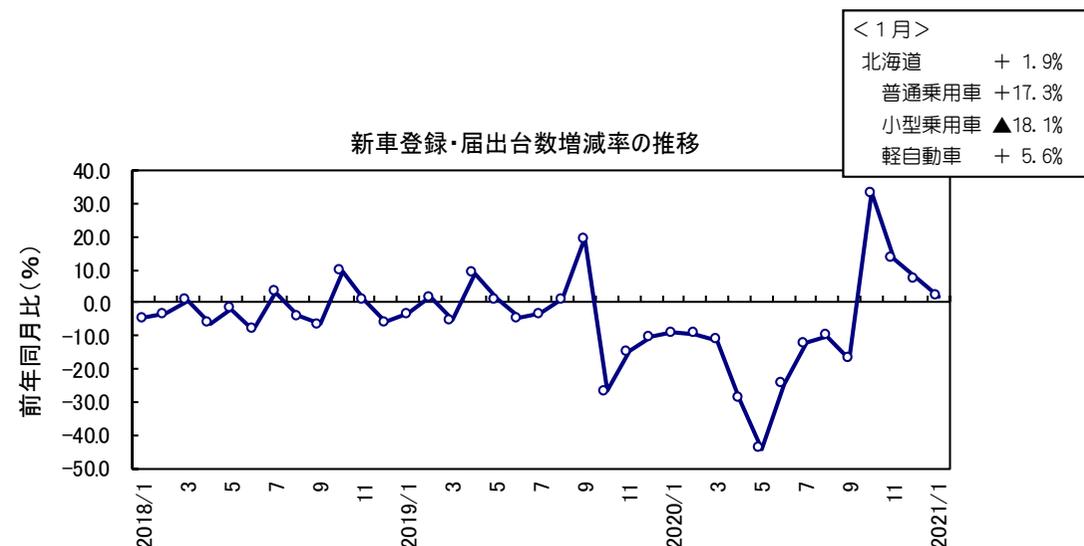
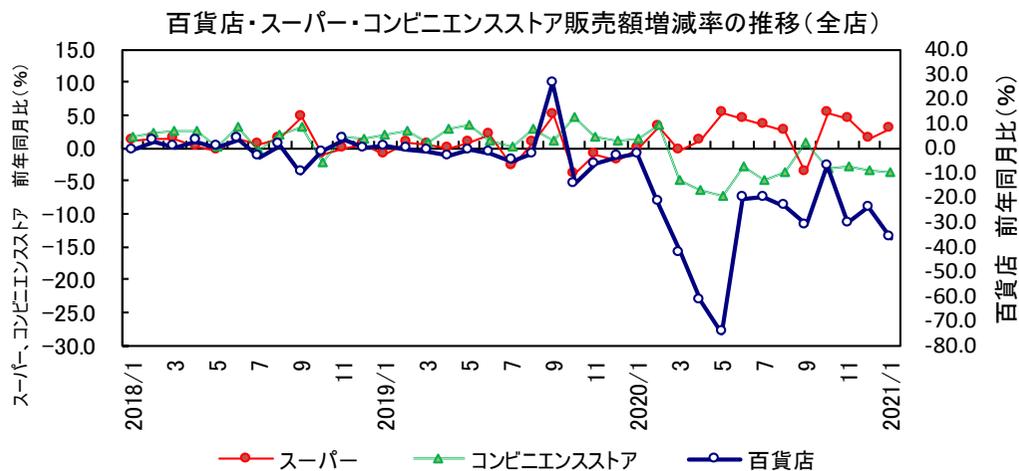


(資料：経済産業省、北海道経済産業局)

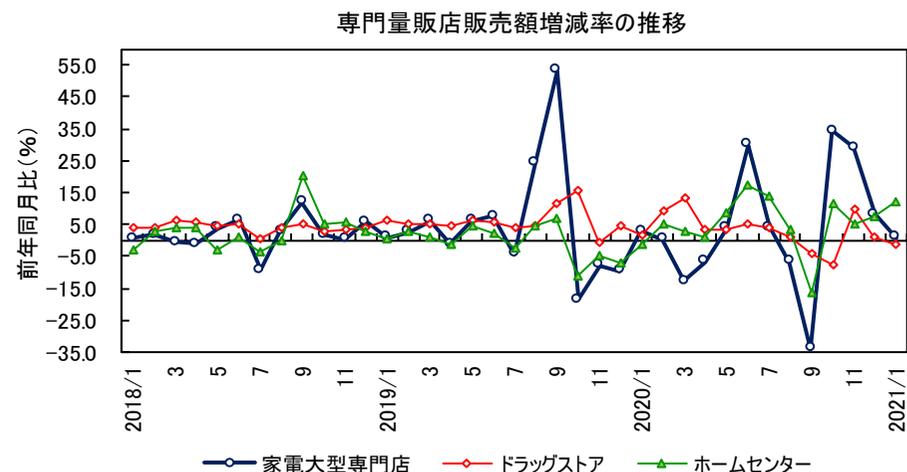
個人消費 ～ 持ち直しの動きに弱さがみられる ～

1月の個人消費は、百貨店、コンビニエンスストア、ドラッグストアは前年を下回り、他の業態は前年を上回った。

- 百貨店は、外出の自粛傾向などにより、前年同月比▲36.3%と16か月連続で前年を下回った。
- スーパーは、内食需要の継続から、飲食料品が堅調だったことなどにより、同+2.8%と4か月連続で前年を上回った。
- コンビニエンスストアは、同▲3.6%と4か月連続で前年を下回った。
- 家電販売は、同+0.8%と4か月連続で前年を上回った。ドラッグストアは、同▲1.2%と3か月ぶりに前年を下回った。
- ホームセンターは、同+12.0%と4か月連続で前年を上回った。
- 新車販売は、同+1.9%と4か月連続で前年を上回った。



(資料：(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)



(資料：北海道経済産業局)

【ヒアリング内容】

- 初売りは、外出自粛傾向が強まる中、福袋などの販売を店頭売りからインターネット販売や予約販売にシフトさせたことから、売上、客数共に前年を大きく下回った。また、ほぼ売上なしの状態が続いている免税売上については、例年ならば春節により売上が伸びる時期に当たることから、影響が大きくなっている。(百貨店)
- オフィス街や繁華街などの店舗の不調が続いている。観光地は12月よりも厳しさを増している。(コンビニエンスストア)
- 11月頃から、買い物の頻度を減らす傾向が徐々に強まりつつある。(ドラッグストア)
- 前年が暖冬だった影響もあり、今年は除雪用品や防寒着などの季節用品が好調となっている。厳しい寒さで水道管の凍結が多く発生したため、ヒーターや凍結防止剤など凍結防止用品の動きも良かった。(ホームセンター)

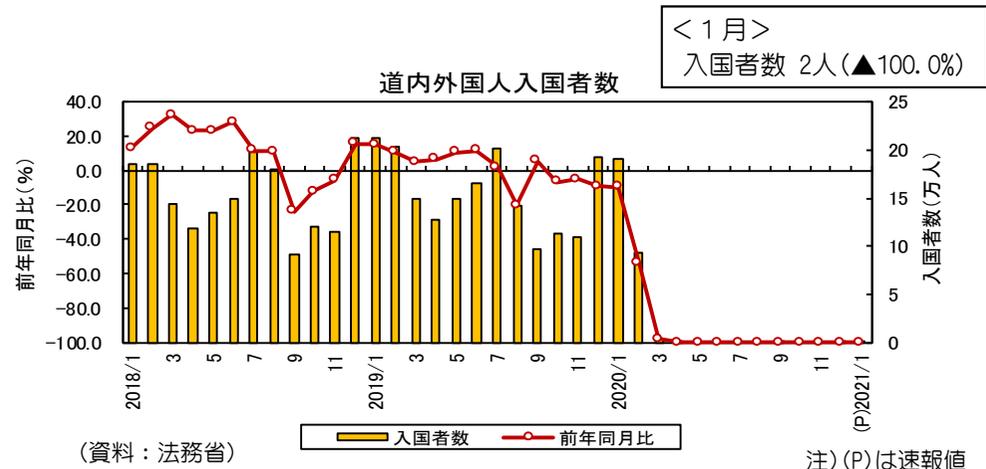
観光 ～ 悪化している ～

1月の来道客数は、前年同月比▲75.2%と12か月連続で前年を下回った。また、道内外国人入国者数は、2人で同▲100.0%と16か月連続で前年を下回った。



<1月> 来道客数 249,877人 (▲75.2%)
 ※北海道外から航空機(国内線)、JR(北海道新幹線)、フェリーを利用して来道した旅客数。
 ※道内で入国手続きを行った外国人数は含まない。

(資料：(公社)北海道観光振興機構)

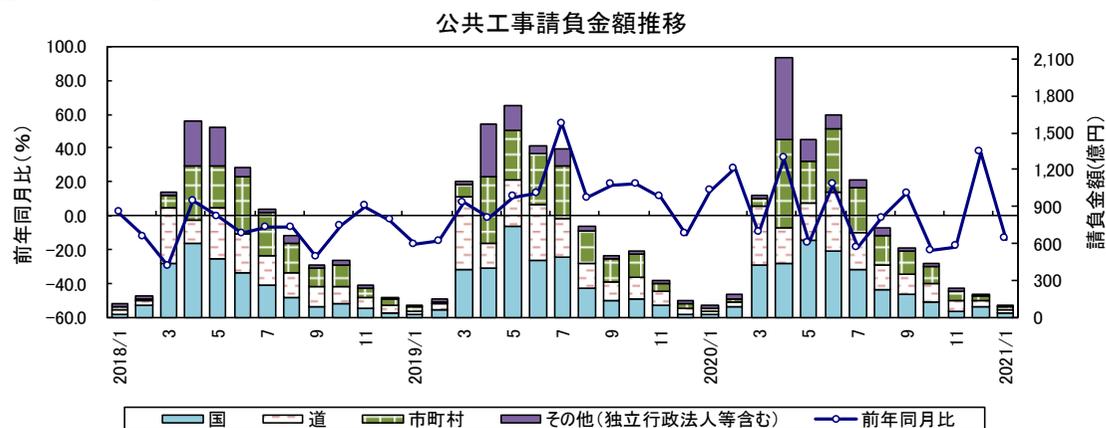


【ヒアリング内容】

- 1月はG o T oトラベルキャンペーンなどの停止により、宿泊施設ではキャンセルが相次ぎ、長期の休館を余儀なくされた宿泊施設もあった。それでも静養のためのお客は一定数いたようだ。2月は、各地のイベントも開催が見送られており、厳しい状況が続くだろう。(関係機関)

公共工事 ～ 減少している ～

1月の公共工事請負金額は、国、市町村は前年を上回ったが、道が前年を下回り、前年同月比▲13.4%と2か月ぶりに前年を下回った。



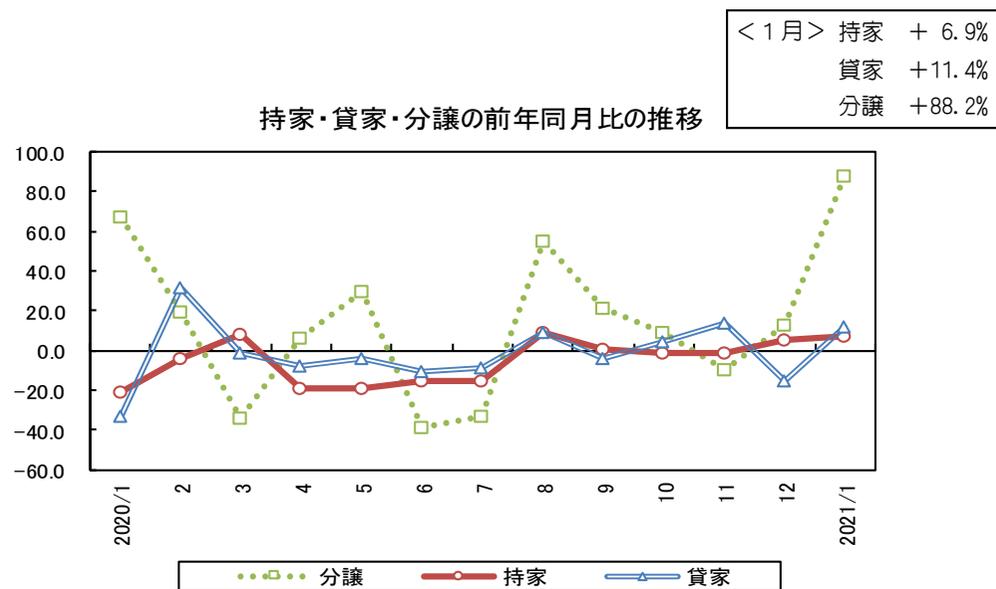
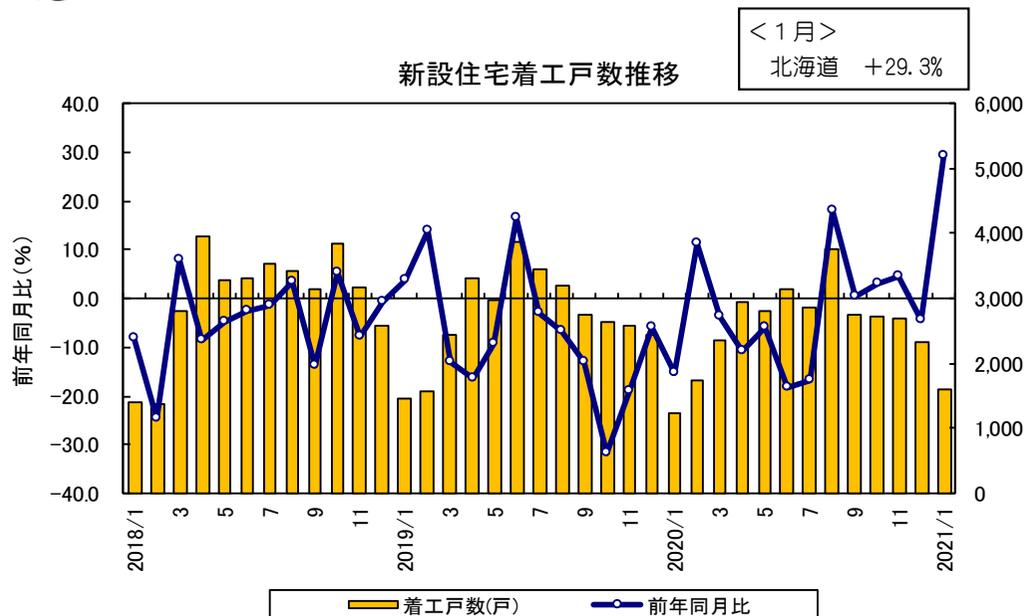
<1月>
 北海道 ▲13.4%
 (内訳)
 国 +103.2% 道 ▲40.5% 市町村 +2.7% その他 ▲70.2%

(請負金額は国、道、市町村、独立行政法人等の合計額)

(資料：北海道建設業信用保証(株)ほか2社)

住宅建設 ～ 持ち直しの兆しがみられる ～

1月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲の全てで前年を上回り、前年同月比+29.3%と2か月ぶりに前年を上回った。



(資料：国土交通省)

民間設備投資 ～ 減少している ～

2020年度の設備投資計画は、全体で前年度比▲10.5%と4年ぶりに前年度を下回る計画となっている。

日銀短観の設備投資動向

2020年12月14日発表

	2019年度	2020年度計画
北海道	+ 14.6%	▲ 10.5%
製造業	+ 17.7%	+ 5.8%
非製造業	+ 13.2%	▲ 18.4%
全国	▲ 0.6%	▲ 3.9%

注) 土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額を除く。

注) 北海道は、電気・ガスを除くベース。

(資料：日本銀行札幌支店)

法人企業景気予測調査(北海道・設備投資)

2020年12月10日発表

	2019年度	2020年度
全産業	+ 17.8%	▲ 6.6%
製造業	+ 27.1%	▲ 13.4%
非製造業	+ 13.6%	▲ 2.1%

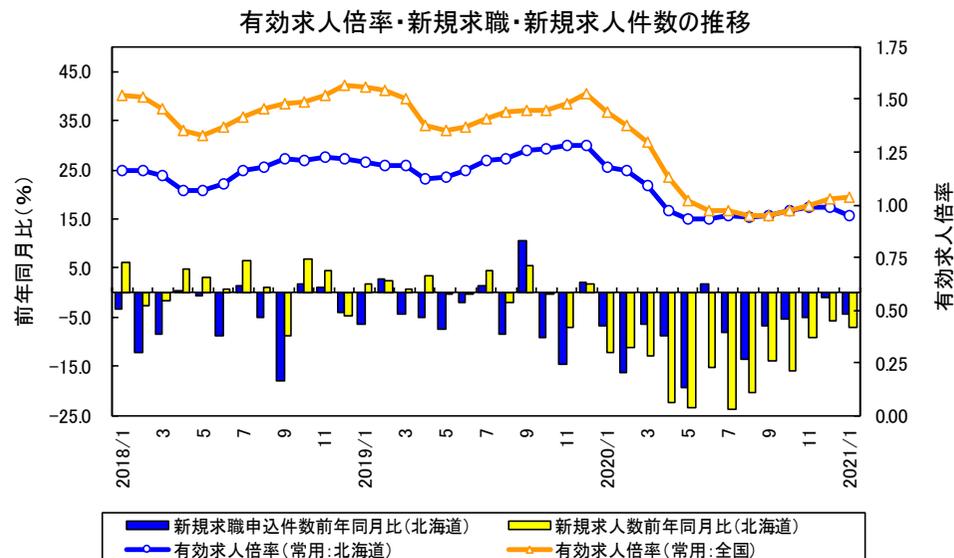
※数値は対前年比増減率。

注) ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く。

(資料：北海道財務局)

雇用動向 ～ 弱い動きがみられる ～

1月の有効求人倍率は、0.95倍と前年同月差0.23ポイント減少し、13か月連続で前年を下回った。

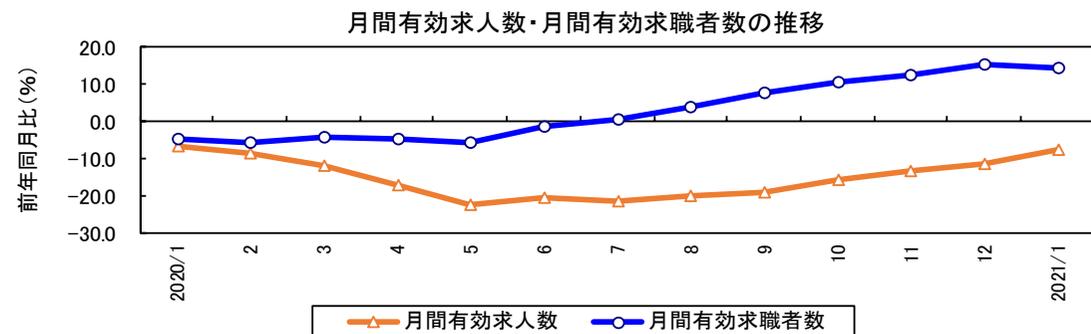


< 1月 >

北海道	有効求人倍率(常用)	0.95倍
	新規求人数(前年同月比)	▲ 7.2%
	新規求職申込件数(前年同月比)	▲ 4.4%
全国	有効求人倍率(常用)	1.04倍

< 1月 >

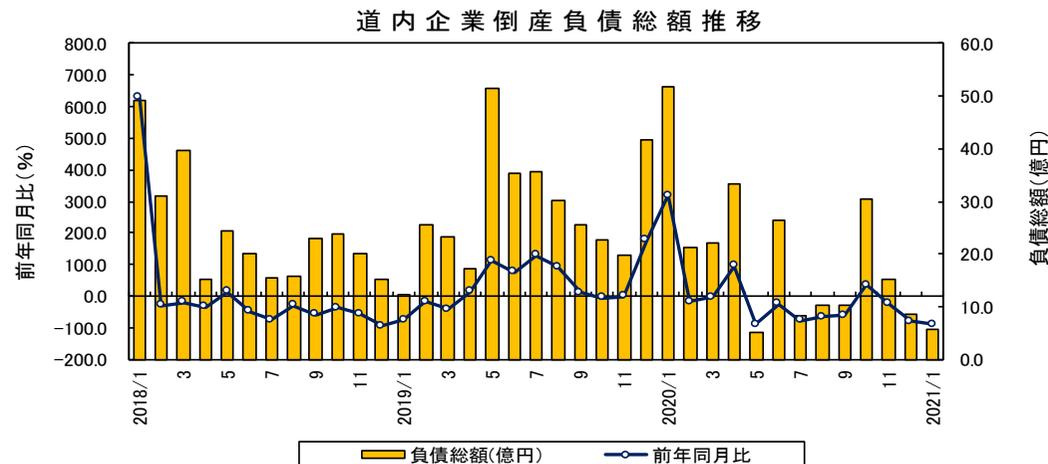
月間有効求人数(前年同月比)	▲ 7.4%
月間有効求職者数(前年同月比)	+14.3%



(資料: 厚生労働省、北海道労働局)

企業倒産 ～ 件数、負債総額とも減少している ～

1月の倒産件数は7件で前年同月比▲66.7% (14件減)、また、負債総額は5.6億円で同▲89.2%と、いずれも3か月連続で前年を下回った。



(資料: (株)東京商工リサーチ)